

安全上のご注意

- 取付の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく取付けを行ってください。
 - ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他人への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさや切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いを正しく生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- 警告:** 人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。
- 注意:** 人が損害を負う可能性及び物的危害の発生が想定される内容。
- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。
- 絵表示の例**
- ① 記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。
 - ② 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。

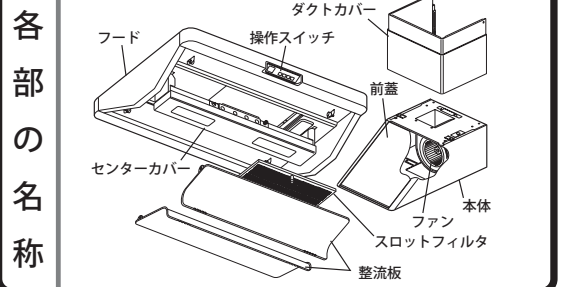
警告

- 修理技術者以外の人、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作しけがをすることがあります。
- メタルスズリ、ワイヤスズリ、または金属板スズリの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルスズ、ワイヤスズ、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けること
漏電した場合、発火したり感電することがあります。
- 電気配線工事は「電気設備技術基準」や「内線規定」に従って確実にすること
配線工事は、電気工事士の資格が必要です。
漏電や火災の原因となります。
- 交流100V以外では使用しないこと
発火・感電の原因となります。

注意

- 運転中は羽根の中に指や物を入れないこと
けがをすることがあります。
- 本体の取付け工事は十分強度のあるところを選んで確実にすること
落下により、けがをすることがあります。
- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと
(浴室用換気扇をお使いください。)
感電および故障の原因となります。
- 羽根や部品の取り付けは確実にすること
落下によるけがをおそれる場合があります。

各部の名称



ダクトカバー、フード、操作スイッチ、前蓋、センターカバー、ファン、スロットフィルタ、整流板、本体

付属品

● 吊り金具 (2個)	● 化粧ねじ (4本) (M4 × 8)
● 座付ねじ (6本) (φ 5.1 × 4.5)	● トラスねじ (2本) (M5 × 12)
● フード引掛金具 (1個)	● ダクトカバー吊り金具 (1個)
● 排気口 (1個)	● ソフトテープ (1本)

取り付け前の調査と準備

注意

- レンジフード本体の取り付け工事は、十分強度のある取付け面または補強等に確実にすること
落下によりけがをすることがあります。
壁材が薄く脆いとお断り音が発生することがあります。
- レンジフード取り付け面の木部に、取り付け用木ねじが確実に届いているかを確認すること
本体の取り付け用木ねじは、45mmの長さのものと同梱されておりますが壁下に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取り付け用木ねじが確実に木部に届くことを確認してください。

1 取り付け面の強度確認

製品を支える強さが必要です。 **重さ 29.5 kg**

- 板張りの場合
 - 板厚が20mm以上の場合は直接に取り付けてください。
 - 板厚が20mm以下の場合には壁に補強板を埋め込み補強板にレンジフードを取り付けてください。
- コンクリート、タイル壁の場合
 - あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールプラグ等を使用し固定してください。
- 土壁の場合
 - 柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでおいてください。

2 別売部品の準備

排気工事に伴って別売部品の準備が事前が必要です。(詳しくは別売部品の項をご参照ください。)

3 標準取付寸法

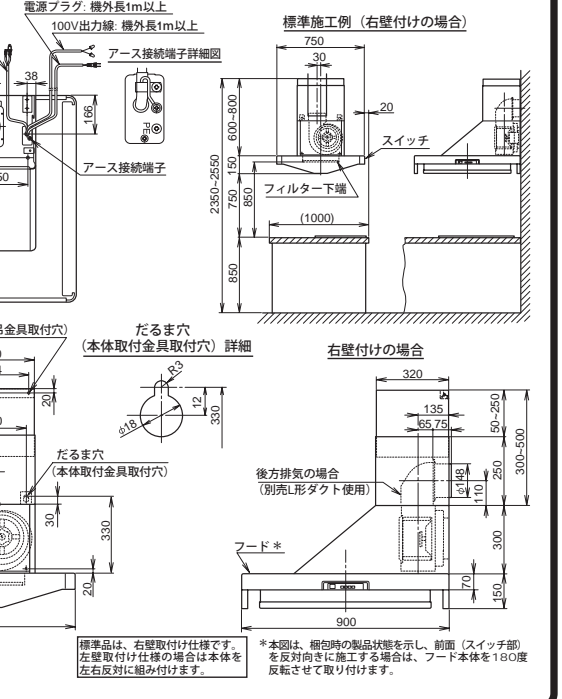
本製品の標準取付寸法は、ガス器具/Hクッキングヒーターの上面からレンジフードのフィルター下面まで85cmです。
※火災予防条例では、グリッドフィルターの下端がレンジの真上80cm以上と定まっています。

4 電源コンセント・ブレーカー

コンセントおよび電源ブレーカーは専用のものを設置してください。(交流・単相100V) コンセントは、JIS C8303 2極差し込み接続器 15A 125V をご使用ください。

製品寸法図

(単位: mm)



標準取付例 (右壁付けの場合)

別売電動シャッター用配線: 電源プラグ 機外長1m以上、100V出力線 機外長1m以上、アース接続端子詳細

2φ6穴 (ダクトカバー吊り金具取付穴) だるま穴 (本体取付金具取付穴) 詳細

右壁付けの場合

後方排気の場合 (別売L形ダクト使用)

標準品は、右壁取り付け仕様です。左壁取り付け仕様の場合は本体を左右反対側に組み付けます。
*本図は、梱包時の製品状態を示し、前面(スイッチ部)を反対向きに施工する場合は、フード本体を180度反転させて取り付けます。

取り付け上のご注意

- ガス器具/Hクッキングヒーターの幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。ガス器具/Hクッキングヒーターはレンジフードの前面より手前にはみだして設置しないでください。排気効率が低下します。
- レンジフードの取り付けは、薄板の金属部(壁内ラス網等)と接触しないように、十分注意して工事してください。なお、本体の壁への埋め込みは、絶対にやめてください。漏電した場合発火することがあります。
- 排気工事をされる場合、建築基準法(防煙法)および消防法等の関連法規に従って施工してください。
- 壁外壁の排気出口に取り付けるバンドキャップまたはパイプフードの通気抵抗は400m²/h時50Pa以下のものをご使用ください。防雨網付きのものを目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。

- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に曲出したダクトは排気効果をいじめるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- 周囲温度が40℃以上になる場所には取り付けしないでください。排気効率が低下します。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対にやめてください。
- 電源は専用コンセントを使用してください。
- 火災・感電の原因となります。
- 薄板の切り口などではけがをすることがあります。
- 製品はガス器具/Hクッキングヒーターの真上に取り付けしてください。なお、製品取付高さ、製品のフィルター下面がガス器具/Hクッキングヒーターの真上85cm以上になるようにしてください。

- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けしないでください。また、横方向50cm以上離れて取り付けください。湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因となります。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約400cm²程度の空気取入口を設けてください。
- 部屋の中央で料理される場合は、油煙が捕集されませんが、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただくには、より優れた換気ができます。
- ダクトの不燃処理についてダクトを50mm以上の不燃材料で被覆してください。

別売部品

- L形ダクト (LD-15) 後方排気の際に使用します。
- パイプフード (WK-15K) 外壁に取り付け雨の侵入を防ぎます。
- 丸形フード (VC-15H) 外壁に取り付け雨の侵入を防ぎます。
- 防火ダンパー付き丸形フード (VC-15DH) 外壁に取り付け、雨の侵入を防ぎ、防火の役目もします。
- 防火ダンパー付きウェザーカバー (WK-15DK) 外壁に取り付け、雨の侵入を防ぎ、防火の役目もします。
- リモコン (RMC-04) 運転操作をリモートコントロールできます。
- 電動シャッター (DS-150) フードの運転と停止を切り替え、停止時に排気ダクトの気密性を向上させます。

取り付けかた

1. 排気方向の決定

警告

- メタルスズリ、ワイヤスズリ、または金属板スズリの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルスズ、ワイヤスズ、金属板とが電氣的に接触しないように取り付けること。漏電した場合、発火したり感電することがあります。

注意

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと
感電および故障の原因となります(浴室用換気扇をお使いください。)

1 製品寸法図を参照し、壁穴を開けてください。

2 φ150のステンレスダクト、またはスパイラルダクトを円のようにレンジフードの上部に突き出すようにセットして、周囲を仕上げてください。(コンクリート、タイル、土壁の場合)

■ 上方排気の場合 (別売のL形ダクトを使用する場合)

■ 後方排気の場合 (別売のL形ダクトを使用する場合)

2 本体の取り付け

注意

- 本体の取付工事は十分強度のあるところを選んで確実に行ってください。
落下により、けがをすることがあります。

1 付属品を準備します。
梱包箱から吊り金具、排気口、ねじなどの付属品を取り出して確認します。

2 吊り金具を取り付けます。
本体天板に2本ずつあらかじめ取り付けられているねじ4本を使用し、付属品の吊り金具2本を天板に取り付けます。(図2-1)

※ ねじを締め付ける際には、インパクトドライバー等は使用しないでください。ねじ部が損傷する恐れがあります。

3 排気口を取り付けます。

■ 上方排気の場合 (図2-2)

排気口に付属品のソフトテープを貼り直接本体に取り付けます。排気口は本体上面の差込部に差し込み、取付ねじ2本で取り付けください。(取付ねじはあらかじめ本体の排気口取付部に止めてありますので外してご使用ください。)

■ 後方排気の場合 (図2-3)

(別売のL形ダクトを使用する場合) 排気口に付属品のソフトテープを貼り別売のL形ダクトに取り付けます。排気口は、L形ダクトに付属の取付ねじ4本でL形ダクトに取り付けてください。(L形ダクトは後で本体上面に取り付けます。)

3. ダクトと排気用品の接続

注意

ドリリングなど排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたりないように図を参照してドリリングねじ使用範囲以内に固定してください。(図3-1)

■ 上方排気の場合
風漏れ防止のテーピング(アルミテープ)を行ってください。(図3-2)

■ 後方排気の場合
(別売のL形ダクトを使用する場合) L形ダクトを本体上面の差込口に差し込みながら、排気口をダクトに挿入し、取付ねじ2本で取り付けください。(取付ねじは、あらかじめ本体のL形ダクト取付部に止めてありますので外してご使用ください。)(図3-3)

1 風漏れ防止のテーピング(アルミテープ)を行ってください。(図3-3)

4. ダクトカバーの取り付け

1 ダクトカバー吊り金具を図のように、切り欠きのあるほうを上にして、座付ねじ2本で取り付けます。(本体の寸法に左右約3mmの誤差は許容されます。)(図4-1)

2 ダクトカバーの高さを調整します。ダクトカバーはスライド式になっています。必要な高さを計算し、内面両側を緩め、長穴で調整し、固定します。ねじ穴は2つありますので高さが合わない場合は入れ替えて使用してください。(図4-2)

3 本体上面内側の左右にある取付金具を固定しているねじをゆるめ、段付きねじにUノッチが引っ掛かるようにダクトカバーの前から差し込み、取付金具のねじを締めてダクトカバーを固定します。(図4-3)

4 ダクトカバー吊り金具に付属の化粧ねじ2本で固定します。(図4-3)

5. 電気配線

警告

- 修理技術者以外の人、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作しけがをすることがあります。

分解・修理・改造禁止

- 配線工事は電気設備技術基準や内線規定に従って安全・確実にすること
配線工事は電気工事士の資格が必要です。誤った配線工事は感電や火災の原因となります。
- 交流100V以外では使用しないこと
発火・感電の原因となります。
- アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電することがあります。アースの取り付けは販売店にご相談ください。

アースを取り付けます

■ コンセントは、JIS C8303 2極差し込み接続器 15A 125V をご使用ください。
■ コンセントはダクトカバーサイズに合わせて図の斜線の範囲内に設置してください。(図5)
■ 必ずアース(D種接地工事)をしてください。アース線の取付位置は「製品寸法図」を参照してください。
※アース線は施工事例にて手配してください。
■ 電源プラグをコンセントに差し込みます。

6. フードの取り付け

出荷時は、フードの操作スイッチを正面にして、右側が壁面となる仕様となっています。(図6-1-a)

1 フードの引掛金具を引掛側の反対側に付属の化粧ねじ2本で取り付けます。(図6-1-a)

2 フードの引掛金具を引掛側の反対側に付属の化粧ねじ2本で取り付けます。(図6-1-b)

7. 試運転

注意

- 運転中は危険ですからファンの中に指や物を絶対に入れないこと。
けがをすることがあります。

● 各操作スイッチを押し、運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書8、9ページをご覧ください。

● 運転時、各速調の排気が正しく行われていること。

● 異常な騒音、振動がないこと。

● 屋外の排気口から排気されていることを確認してください。

※ 取り付け又は施工上発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

8. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様にお渡しください。

【製造元】 **富士工業株式会社**
本社・営業部 〒229-0006 相模原市淵野辺2丁目1番9号
TEL 042(768)3754 (営業部)